



2011年6月19日

いま起きつつあること…

沿岸の町が全部なくなつていた

ぼくが最初に被災地に入つたのは、3月11日の4日後でした。車で移動して、岩手、宮城、福島の400キロに及ぶすべての海岸の町が完全になくなつていて、「ここに驚きました。25年くらい世界中を回り続け、いろいろな戦場に行

して刻まれた。それと同じようなことを、今回津波の被災者の方は見たのではないかと思いました。

今、新聞を開くと被災者の人たちの二コ二コしている顔が掲載されています。でも被災地を回って感じるのは、本当に、今だからこそ疲れ果てている。震災直後は、何が起きたのかも理解することができず、高揚していた感じがします。だけど、高揚感は長

「ほんらはあまりにも自然
いうものをばかにしてきた
ではないか。たとえば、東
の人たちは言いつづけまし
「これは千年に一度の津波
ある」と。だけど、原発の
でつくられているフルトニ
ムは半減期が2万4千年で
から、東電は最低でも2万
千年を考えなくてはいけな

からです。ぼくは東京に住んで、東電の電気を使っています。この生活を維持するためには、原発もやむなしかなとうすうす考えていました。

「これと同じようなことは、たぶん戦争のときに多くのキリスト者、また多くの日本人が考えたのではないかと思します。このままいけば確実に戦争が起きるというときに、なんとなくわかつていながら誰も止めることができなかつ

命のいのち あべしの 生命じゆめい



桃井和馬さんの 講演会から

きましたが、そこまで完璧に破壊された巨大なエリアをぼくは見たことがなかった。

く続かなかつた。そして今、じわじわと心を蝕んでいくよう現実がのしかかっていくのです。

千年に一度の津波であつたら
ブルトニアムが半減期を迎
るまでに**24**回の津波が来ると
いふことです。ならば、それ

か。それまで自分たちが生活していた家、町が、すべて一発の原子爆弾によって焼け野原になってしまったのを見ていたはずです。だから、心の一番深いところに負の記憶と

「言葉では言い表わせないような傷を残してしまいます。表では明るく振る舞つていねけど、夜になると救いようのない闇が彼らを包んでいるのだ」と思いました。

わると思つてしまつた。その結果が、今回の特に原発の問題であると思つています。

はくは見た」とかなかつた
ーの情景を見たとき、広島
の平和記念資料館で最初に展
示されてくる写真を思い出し
ました。そこを歩いている人
は、どうこうしたことを感じたの

母を、父を、兄弟を失つてしまつた人たちがそんなに明るく振る舞つことはできない。それは、人々の心に、とても

る間では2回の浮浪が来るといふことです。ならば、それは想定内であるべきはずですがそれが、あまりにも人間は自分たちの力を過信しそぎていた、自然をもコントロールで

「このようなことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい」（ルカによる福音書21章28節）



2011年6月19日

いま起きつつあること…

た。それが結果的に、第二次世界大戦を生んだのだと思っています。

今の原発の問題は、それにものすごく近いと思う。私たちは、実は福島に対しての加害者の立場にある。そうやって自分たちの責任を直視しながら、ひたすら電気を野放に使い続けていた。

福島の人たちに 毒饅頭を食べさせた

ぼくは Chernobyl に行つて取材していますが、これまでみんな Chernobyl 原発事故の本質を誤つてたと思います。事故の本質は何か。電気なんです。Chernobyl の周辺に行くとともにすごい数の電気が走つています。ソ連政府は、もしかしたら事故が起つるかもしれないけれども、事故は起つらないかもしないという想定のもとに大量に Chernobyl 型の原発をつくりつけた。そ

の正体は何かと言つたら、電気であり、人々の個々人の欲望なんです。

今回の福島のこととそれと同じようなことがいえるのではないかでしょうか。田原総一朗さんは、原発は毒饅頭だということを言つていました。原発は「基ができると、何基もそこにできてしまう。毒饅頭を福島の人間に食わせる。」この罪はあまりにも重いです。その一端を、私たちは知つてから知らずか担つてているんだとうことを、私はここで告白しなければいけないと思つています。

ぼくは被災地を取材した直後にインドに飛びました。インドのヒマラヤで、チベット仏教の聖地でもあり、ダライ・ラマに近い人たちが朝から晩まで祈りに基づく生活をつづけています。そこは 6 千メー

トル、7 千メートルの山が普通ですけど、崖崩れがガンガンおきる。だけど、昔から住んでいる土地、自分の住みなれている場所だから、彼らはないでしようか。田原総一郎

から、自然が人間にはコントロールできないものであることを、彼らは実によく知つていました。

ぼくは、今の時代こそ信仰が必要だと思っています。不安なことがいつぱい起きる。その中で、どんな形であれ祈り続けること、人間が絶対ではないこと、神、あるいは彼らにとっては仏かもしれない、

そういう世界があることをきちんと認識しないと、人間は暴走する。暴走した結果が、今回の大原発事故だと思つてます。

私たちには、「この一周4万キロの大地でしか生きることができない。放射線事故で住めなくなってしまう大地がある」とすれば、それは私たちは自分が首を締めているようなものです。私たちは本当に何が大切なのか、それをもう一回考えるチャンスが 3・11 以降

吹ぐ。その中で山が立つています。標高は 3050 メートルしかありませんが、この山の頂上に登つた人間はないんです。登れないんです。人間にはまだまだ立ち入つてはいけない領域があるということです。

私たちには、「この一周4万キロの大地でしか生きることができない。放射線事故で住めなくなってしまう大地がある」とすれば、それは私たちは自分が首を締めているようなものです。私たちは本当に何が大切なのか、それをもう一回